景観

第3回 設計者が考える 景観づくりワークショップ

要旨

日時　平成24年10月29日（月）
　　18時半～20時半
場所　建築士会館３階

１　開会

２　ワークショップの進め方について

資料１を用いて、進め方の簡単な説明があった。

３　グループワークグループワーク

協議テーマ１『景観配慮のための具体的な工夫について考えよう』（継続協議）

前回に引き続き、持ち寄った写真（事例）を参照しながら、景観への配慮が見える点や配慮が足りないと思う点について、意見を出し合った。さらに、景観改善のための具体的な工夫やデザイン等について知恵を絞った。

意見のまとめ

今回のワークショップのまとめは、第２回ワークショップのまとめを元にして、追加部分の項目や意見内容を青字にして作成している。

（凡例）

◎　景観に配慮された「よい事例」事例

▲　景観への配慮が見られない「悪い事例」

①「自然景観に隣接する場所、またそれらを背景とする場所」
②「海浜近くの場所」

◎ 海辺の自然との繋がりを大切にした緑地（緑）を配置する

- 海辺の近く（築港）では、沿道に緑が連なり効果的な景観になっている。
- 緑陰の効果と自然景観との繋がりが生まれてよいと思う。

◎ 水辺の環境をうまく活用するデザインが大事

- 周りの環境を、うまく活用するデザインが大事。
- 川に隣接する敷地では、川を積極的に活用するデザインをするのがいいのではないか。水辺の方からも入れるようにするなど。
- 川に沿って遊歩道ある場合は、それをうまく活用する。

◎ 俯瞰する視野にも配慮して、周りの景観調和を考慮する

- 自然に囲まれた付近で、上から見下ろすことのできる場所では、屋根の色が重要な要素になる。

- 水辺をうまく活用すれば良い雰囲気が演出できる可能性がある。それがいずれは地域ブランドに昇華する。

◎ 背景の自然景観と調和のとれた色彩

- 火力発電所の煙突。背景となっている空の色彩と調和して、目立ちにくくてよい。

③「住宅地や集落など生活空間に近接する場所」

▲ 緑は良いけど、維持管理が大変

- 植栽は維持管理が大変。という施主が多い。外構など、コンクリートで固めてしまう。

◎ 緑の縁取りは住環境にゆとりを生み出す

- 低層住宅の屋根並みは統一感がある。
- セットバックされ、緑があるとゆとりが感じられる。
- 隣接する家の敷地と調和することが重要である。

④「中心市街地やまちなかの場所」

▲ 際だつ外観色彩の建物

- まちなかで際立つ外壁色彩の建物。
- 商売上目立たせたい意向が逆効果。人が入りにくい印象を受ける。
- 「安っぽい」印象を感じさせるデザイン。

◎ 周りの景観と調和のとれた色彩

- 隣接建物との色彩の統一などにより、調和を感じさせる。
- コーポレートカラーなど、目立たせたいものは低層部で表現する。
- にぎわいを創るのは一階だけで表現する。

- 色はおとなしくないが、周辺からとりたてて目立つわけではない。
- セットバックしているので、色も主張しすぎない。

▲ 建物規模がアンバランス

- 建物の大きさに統一性がない。場所の特性などに応じた大きさの配慮が必要。

▲ 城下周辺の風致との調和 ◎

- 洋風の外観意匠は周囲の風致と調和しない。

- 和風意匠は周囲の風致とも調和する。

◎ 効果的な緑の配置の工夫

- 少ない緑でも角地等、効果的に緑を配置すると印象が大きく変わる。

- 角地にシンボリックな緑を配置する。

- セットバックした空間に豊富な緑を配置する。

- 壁面緑化は少ない緑でも効果的。

- 限られた敷地の中に、うまく緑の空間を確保している。

- 建物はリーズナブル、シンプルに。足元の緑が豊かな印象を与え、建物の評価を押し上げている。

- 建物の全面を、駐車場でなく緑の空間にすると、建物の圧迫感がなくなる。

▲歩行者に対する配慮：圧迫感・「裏側」としてのイメージ・無機質な印象を与えない

- 地上階を倉庫等にすると、人を寄せ付けない印象になるので注意が必要。

- ２m近くの長大なコンクリートブロック塀は、中が見えず冷たい印象になってしまう。仕上げを工夫し、高さも抑える。

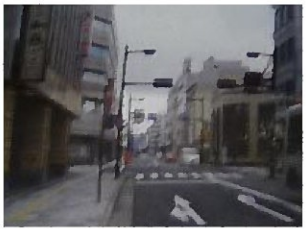
- 設備（ごみステーション等）を正面に持ってくると、いかにも「裏側」の印象になってしまう。正面以外の部分に収めるなど、配慮が必要。

◎ 長大な壁面に対する工夫

- ビルの長大な壁面は通りに向けないように配置すると、スリムな印象を受ける。
- ２階以上の壁面を後退させるデザインで、隙間をつくり圧迫感を軽減する。

効果的な緑の使い方

- 通りに緑がないと殺風景でうるおいがない。
- 公共空間（歩道）の緑も景観上重要。



- 建物前面の街路樹を活かして建物の配置や緑の配置を考えるとよい。

過剰な規模の広告物

- 交差点付近に集積する屋外広告物。数が多すぎる。

- 過剰な大きさの広告物。過剰な色彩を感じさせる。

- 歩行者の近く建つ看板にしては大きすぎる。

公共施設のデザイン検討

- 最近建てられた交番。意匠への配慮が感じられない。
- 公共施設としてデザイン性にも配慮した設計発注をすべき。

- 学校の外観色彩が「地域住民」からの意見で彩度の高い色になってしまった。専門家のアドバイスを受けてもらいたい。

- 城をモチーフにしているが違和感がある。意匠も含め建てる位置等に考慮が必要。

〈追加項目〉

地域の特性を読み解く、特性を活かす

地域の特性を読み解く

- 左の写真は商人地、右は武家地。区画、敷地の大きさが異なり印象もかなり違う。このように地区の特性を読み取ることが大切。
- 地区ごとに土地利用や雰囲気が異なる。設計者や専門家が地区のめざす方向（景観づくり）を共有しておく必要がある。

地域の特性を活かす

【観光地の特性の活かし方】
- 紀三井寺周辺などは人（観光客）が来るのが分かっているのに配慮が乏しい。
- 建物のデザインとあわせて、まちとしてのデザイン（点を線でつなぐ）が大切である。
- デザイン的な面から言えば、店先のしつらえは人を呼び込む上で重要な要素。

【中心市街地の特性の活かし方】
- 和歌山市は観光地としての資源は多くあるが、それを受け入れる施設（特にまちなか）が乏しい。
- 伏虎中学の跡地活用やぶらくり丁の中へのパブリックスペースの確保など人を呼び込む仕掛けが必要。

協議テーマ２『設計者として景観配慮のために、取り組むべきこと・考えること』

（１）景観配慮にあたって設計者として心がけるべきこと

○施主に対して、まちづくりに関わっていることを自覚させる

- 場所ごとに固有の景観というものが存在し、その場所にあった街並みに配慮した建物を建てる責任が「施主」にもあるという事を理解させる必要がある。
- 例えば、「最低限、見えるところ（通りに面したところ）は軒を揃える/色調に配慮する」といったように、自ら出来る事は意識して取り組みましょうと促すことも大切。

○市民への景観教育が必要

- 価値観や選択肢の多様化が進んだことで、景観が損なわれた気がする。
- 一人ひとりの暮らしや営み（家を建てる事も含む）が街並みをつくっているといったベースの部分に関する景観教育を行う必要がある。※行政の役割かもしれないが…
- 例えば、周辺環境になじむような建物をつくることで地域の景観や住環境が向上する、すなわち個々の質を高めることがパブリックな空間の質向上にもつながるといった事を常日頃から意識づけしていくことが大切。

（２）施主の要求について、どういうデザインを提案し理解を得るか

○建物外観色彩（見せ方、使い方）について

【目立つ色彩はポイント使いで】

・目立つ色彩はピンポイントで使用することを勧める。鮮やかな色彩が全くなければ単調になるが、すべて鮮やかでも飽きがくる。

【使用すべきでない色もある】

・住宅には、原色の青、緑色は避けるべき。

【見える化する】

・パースを作成して、仕上がりイメージを共有する。一般の人には、最終の仕上がりイメージは描くことが難しいので、専門家として伝えることは重要。何度も見せる中で、妥協案が見つかる。

○緑の使い方

【緑の効果を伝える　⇒　店の PR につながる】

・店の設計の場合は、緑がある方が店のいい雰囲気を PR できますよと勧める。

【適量の緑の配置　⇒　維持管理の負担軽減】

・緑を枯らせてしまっては意味がないので、自己管理できる程度の適切な量の緑を提案。設計したほうも責任を持って、完成後も見守っていくくらいの熱意をもって勧める。

【見える化する】

・パースを作成して、緑の効果を知ってもらう。

○歩行者への配慮

【圧迫感は「不快」（迷惑）です】

・「圧迫感があると前を通る人に不快な思いをさせますよ」と説得する。

【外構はおまけではありません】

・外構のことを考慮しながら建物を設計する。外構は後回しになりがちで、結局空いているところに配置することになってしまう。注意が必要。

4　閉会

みなさんからいただいたご意見、アイデアは、ガイドラインに反映していく。また、今日提案いただいた、じっくり取り組む必要があることについても、長い目で検討していく。

以　上